

旅行好き 検査技師に聞く！ 血液検査のギモン??

病院でいざ採血するときに、自分が採血される採血管の本数の多さに驚いた方は多いのではないのでしょうか?? なぜたくさんの種類の採血管が必要なのか。そのギモンに旅行好きな臨床検査技師がお答えしていきます！

まず血液は血管の外にでると固まる性質を持っています。
採血された血液は測定する項目によっていくつかの成分に分けて分析をしていきます。

- ① 全血（ゼンケツ：採血後の血液のまま）
- ② 血清（ケッセイ：採血後の血液を固めて遠心分離したあとの上澄み）
- ③ 血漿（ケッシュョウ：採血後の血液を固めないで遠心分離したあとの上澄み）

大きく分けてこの3つの材料で測定しています！

＼ここでギモン??／

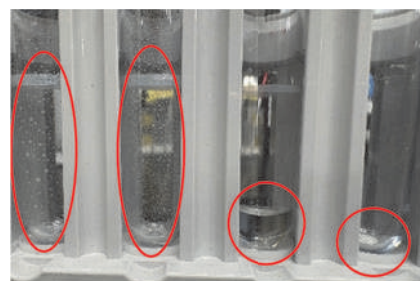
“血液は血管の外にでると固まります”とお伝えしました。
では③の血漿はどのように作るのでしょうか??

それは、、、採血管の中に血液を固まらないようにする“抗凝固剤”
という薬剤が入っているからです!!

採血管の中をよーく見ると粉末や液体などが入っています。これが抗凝固剤です。この薬剤が入っている
おかげで血液が固まらない状態で検査をすることができます!!

わずかな量で固まらないようにするなんて、、、スゴイ!!

このように検査の種類によって抗凝固剤が異なるため、何を調べるかによって採血管を使い分けているのです。



お知らせ

患者さん・ご来院の皆様へ

院内での マスク着用について



2026年8月1日より、
院内でのマスク着用は
一部の部署を除き **任意** となります

以下の部署ではマスク着用が**必須**です

- 救急外来
- 外来化学療法室
- 透析室
- 産婦人科病棟(4階西)
- 血液内科病棟(7階西)
- ICU
- HCU



以下の場面では、引き続きマスクの着用をお願いします

- ① 咳やくしゃみ、鼻水などの上気道症状がある場合
- ② 患者さんの状況により
当院の職員がマスク着用が必要と判断した場合
- ③ インフルエンザウイルス・新型コロナウイルスなどの
感染症流行時

皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします 練馬が丘病院

練馬光が丘病院は「公益社団法人地域医療振興協会」の運営施設です。地域医療振興協会は、地域医療を取り巻くさまざまな問題を解決し、へき地を中心とした地域保健医療の調査研究および地域医学知識の啓発と普及を行うことを目的に1987年5月に設立され、2009年12月1日より公益社団法人として新たにスタートしました。地域医療に対する意欲と実績を持つ医師を中心に、つねに地域保健医療の確保と質の向上など住民福祉の増進を図り、地域間での医療の不均衡の解消、地域の振興を推進しています。

発行元：練馬が丘病院

〒179-0072 東京都練馬区光が丘2-5-1
TEL:03-3979-3611(代)
<https://hikarigaoka-jadecom.jp/>

きらきら・レター

Kirakira-Letter

令和8年9月

公益社団法人地域医療振興協会 練馬が丘病院 広報紙

第101号



もくじ

最前線のプロフェッショナルたち
～中堅リハスタッフが紐解く、

光が丘を支えるチーム医療～…… 2～3

旅行好き検査技師に聞く！検査の疑問…… 4

お知らせ…… 4

最前線のプロフェッショナルたち

～ 中堅リハスタッフが紐解く、 光ヶ丘を支えるチーム医療 ～

令和8年度の診療報酬改定により、慢性心不全患者さまの増加を背景に「心不全再入院予防継続管理料」が新設されました。当院では2年前に「心不全チーム」を立ち上げ、多職種連携による教育・指導体制を強化しています。今回は、光ヶ丘エリアの心不全医療を牽引するチームメンバーに、その取り組みの最前線を聞きました。

「バラバラの指導」からの脱却。心不全チーム誕生の裏側

矢 崎 (リハビリ) … 今回は地域の皆様や近隣クリニックの先生方に、当院の心不全チームの取り組みを知っていただくためのインタビューです。まずは、チームの立ち上げのきっかけと現在の活動を教えてください。

戸田さん (看護師) … チーム立ち上げ前は、各職種がバラバラのタイミングで心不全教育を行っており、情報共有も不十分でした。『これでは患者さまに効果的な教育ができない』という危機感から、多職種で連携できるチームを立ち上げました。現在は『心不全教育パス』を活用し、必要な指導を漏れなく行える仕組みを作り、月1回のカンファレンスで教育体制の改善を続けています。

多職種だから見える「患者さまのリアルな生活」

矢 崎 (リハビリ) … チームができたことで、皆様のアプローチにはどんな変化がありましたか？

市村さん (リハビリ) … 心不全は生活習慣と深く関わります。看護師さんが入院早期から詳細な生活背景を確認してくれるおかげで、私たちも患者さまの理解度や社会背景に合わせた介入ができるようになりました。理解が難しい方にはまず信頼関係の構築を優先するなど、個別に合わせた指導を行っています。

中山さん (薬剤師) … 以前は薬の効果や副作用を中心に見ていましたが、チーム活動を通して『退院後も薬を飲み続けられるか？』という視点をより強く持つようになりました。多職種からの情報のおかげで、患者さまの生活全体を見据えた服薬支援ができるようになっていきます。

塩野さん (管理栄養士) … リハスタッフや薬剤師、MSW などから、日頃の様子や家庭環境の情報を得られるようになり、栄養士だけでは気づけなかった視点で、よりその方に寄り添った栄養指導ができるようになりました。

塩野谷さん (MSW) … 医療だけでなく、運動、食事、服薬など、様々な視点が絶妙なバランスで成り立っていることを日々感じています。退院後もケアマネジャーなど地域の支援者へ、必要な情報を抜け漏れなく繋ぐことを意識しています。

矢 崎 (リハビリ) … 各職種が専門性を発揮しながらも、視点を共有することで、より深く患者さまを支えられるようになったのですね。



「今月も来られたよ」～きらりハート外来の挑戦～

矢 崎 (リハビリ) … 退院後の患者さまをサポートする『きらりハート外来』での、印象的なエピソードを教えてください。

戸田さん (看護師) … 入退院を繰り返していた患者さまが、『今月もここに来られたよ』と笑顔で来院された時は嬉しかったですね。生活の工夫を少しずつ取り入れ、自宅で過ごせる期間が確実に長くなっています。また、毎日あんパンを食べていた糖尿病合併の患者さまが、栄養士との連携指導により『無糖ヨーグルトに変えられました』と報告してくださり、データも改善しました。退院後の変化を継続して追えることは、私たちにとっても大きな喜びです。

谷口先生 (医師) … 私も当院に来て驚いたのですが、外来で患者さまが『心不全手帳』を開き、『今日の体重はどうでしょう？』と主体的に話してくださるんです。患者さま自身が病気を理解し、自己管理に取り組めるようになっていくことを実感します。多職種がしっかり情報を共有してくれることで、より質の高い診療につながっています。

地域の皆様、近隣クリニックの先生方へ

矢 崎 (リハビリ) … 最後に、地域の方々やクリニックの先生方へメッセージをお願いします。

市村さん (リハビリ) … 運動や生活について不安なことがあれば、一人で抱え込まず、お気軽にご相談ください。

戸田さん (看護師) … 入院中の心不全教育はスタートに過ぎず、退院後の自己管理が大切です。患者さまが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、近隣の先生方とも連携して支えていきたいです。

中山さん (薬剤師) … 服薬を無理なく続けられるよう、地域の薬局とも連携しながら支援していきます。

塩野さん (管理栄養士) … 患者さま一人ひとりに寄り添い、食事の面から安心して生活が続けられるようサポートします。

塩野谷さん (MSW) … 患者さまやご家族が安心して地域で生活が続けられるよう、多職種と地域をつなぐ役割を担ってまいります。

谷口先生 (医師) … 心不全チームの取り組みを病院内だけで終わらせるのではなく、近隣のクリニックの先生方と連携を強化し、練馬区全体で心不全患者さまを手厚く支えていける体制を築いていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

